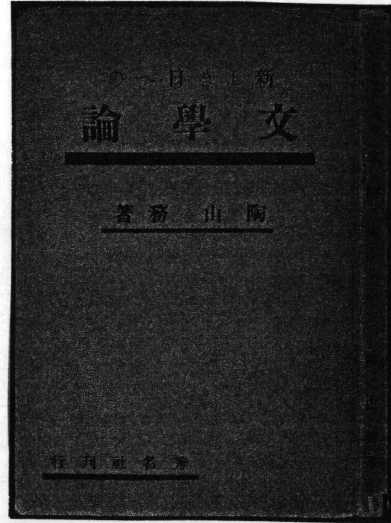


陶山務 （たかやま） 評論家。明治二十八年十一月二十七日廣島縣生れ、昭和四十九年九月二十八日歿（二六五—一九五四）。筆名春日晴雨、陶山力、陶山尚史等。大正六年青山學院高等部卒。法政大學、東北學院大學各教授歴任。

譯著書、アロイシウス・ロオザヤ著『美の研究』（譯、大正十一年八月）
『二百アルス』、『新しき行への文
學論』（昭和二年十一月十日秀名社）、アプトン・シントレヤ著『京教信ずべき事』（小野健人共譯、昭和五年四月十六日アルス）、『魂は哲學する』（昭和七年十一月十五日



アルス）、『（最近）社會思想の展望』（昭和八年二月二十日弘學館書店）、
『街頭の反テーゼ』（ヤシチ）（昭和八年五月十日不動書房）、ヘルデルリン著『ヒュペリオン』（内題「思想するヒュペリオン」譯、昭和十年五月十五日第一書房）、『キエルクゴールの言葉』（譯、昭和十一年七月十日第一書房）、『戀愛・結婚の新座標』（昭和十一年九月二十八日大都書房）、高山樗牛著『人生讀本—春夏秋冬』（編、昭和十一年十一月五日第一書房）、カアル・ヒルチイ著『病むる魂』（譯、昭和十一年八月十日第一書房）、パウル・ガスト著『新しき注の形式』（譯、昭和十一年十一月二十日第一書房）、『若き日の哲學』（昭和十六年五月十日第一書房）、『吉田松陰の精神』（昭和十六年八月十五日第一書房）
『戦時體制版』（）、ヤダムス・ベック著『東洋哲學夜話』（譯、昭和十七年六月二十日第一書房）、『中江藤樹の人生觀』（昭和十八

年八月二十日第一書房)、
『道理への郷愁』(昭和二十四年八月五日
岡倉書房「岡倉新書」)、ウイユ・デュラン卜著
『折目學と夜話』(譯、
昭和二十九年四月五日早川書房)等。